

# 馬産地をめぐる情勢

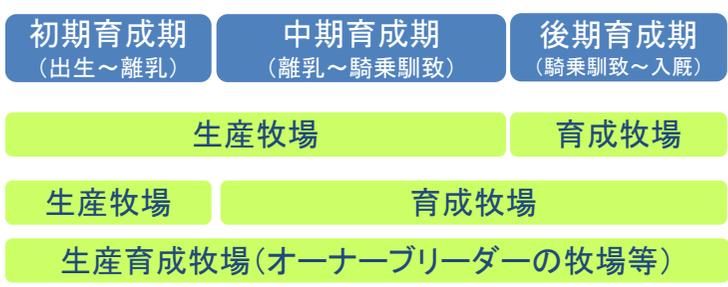
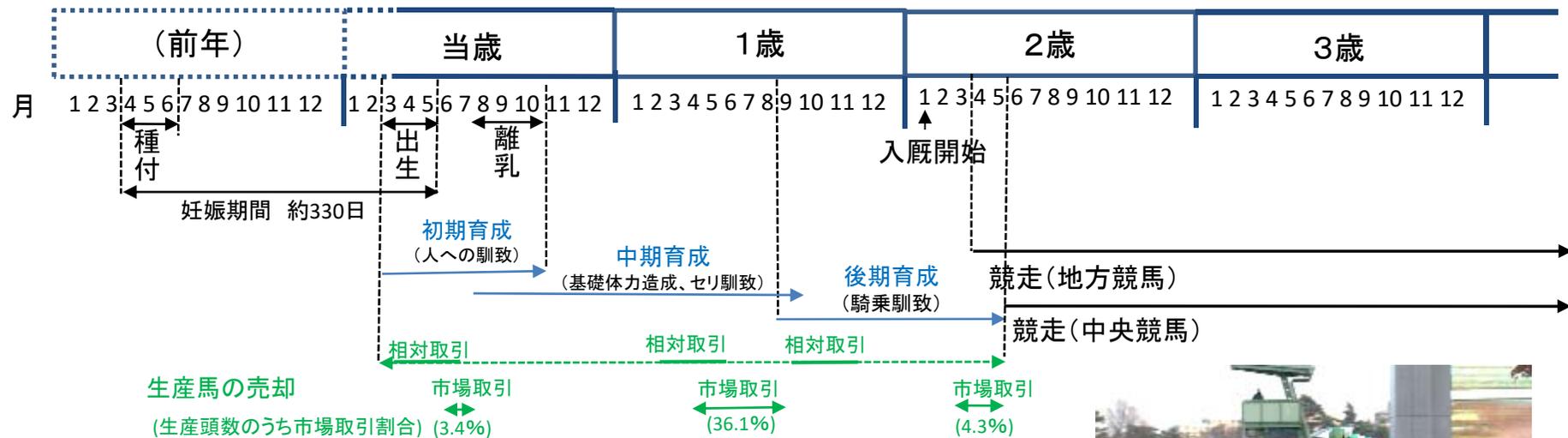
2019年2月  
農林水産省生産局畜産部  
競馬監督課

## <目次>

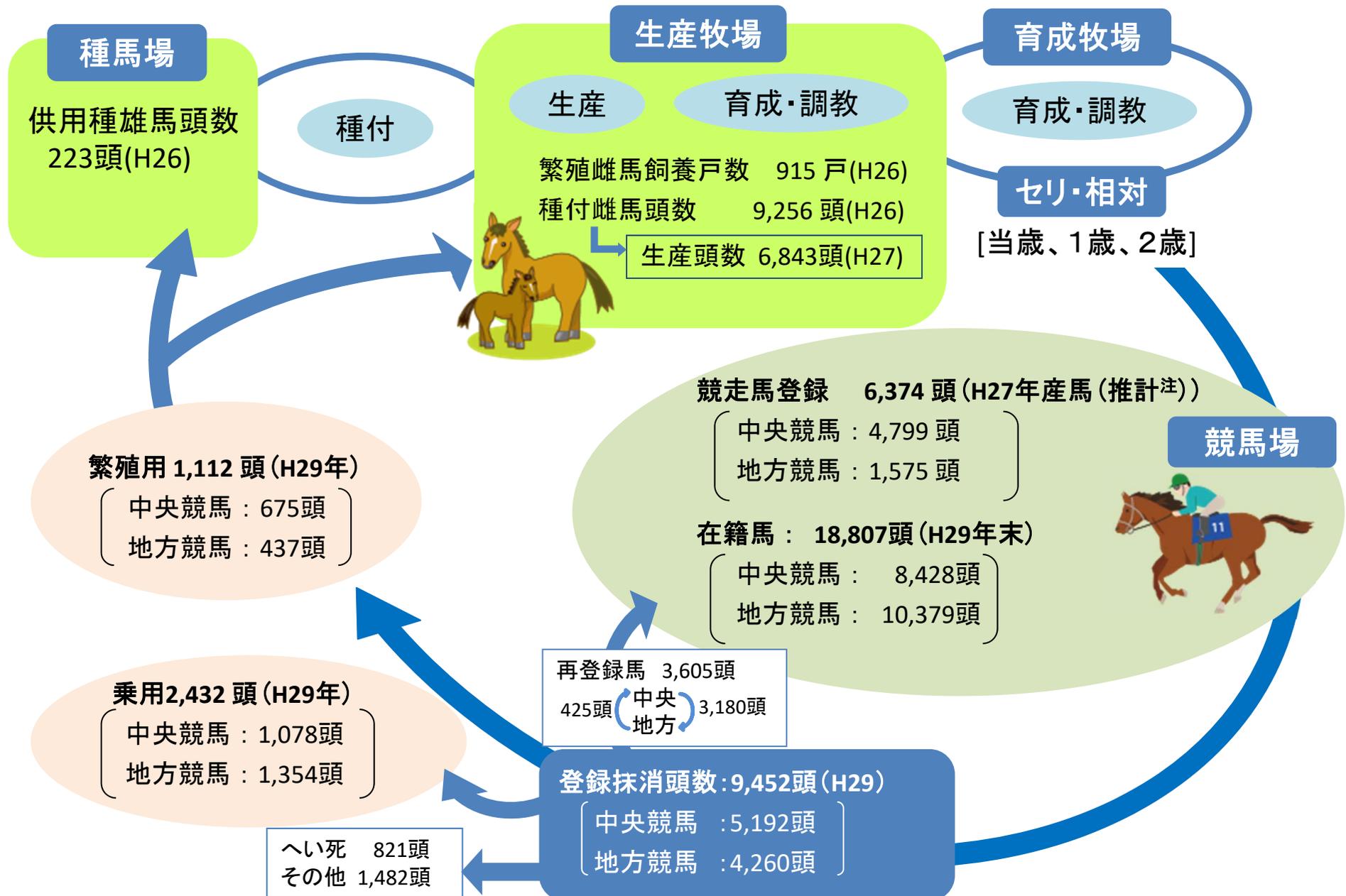
- 1 競走馬の生産・育成ステージ
- 2 軽種馬(サラ系)のライフサイクル
- 3 馬の飼養頭数の推移
- 4 軽種馬の生産農家戸数と生産頭数の推移
- 5 軽種馬生産の現況(平成29年)
- 6 馬産地における軽種馬生産の位置付け
- 7 <飼養頭数規模別>軽種馬生産農家戸数・繁殖雌馬飼養頭数
- 8 軽種馬生産農家の経営状況
- 9 軽種馬の市場取引状況
- 10 馬登録抹消の事由別頭数
- 11 馬の多様な利活用について
- 12 【11の参考】利活用事例箇所のマッピング
- 13 競走馬生産振興事業の流れ
- 14 競走馬生産振興事業の概要
- 15 農用馬生産振興について

# 軽種馬の生産・育成ステージ

- 軽種馬は、主に3月～5月に生産牧場で出生し、生産牧場や育成牧場等での約2年間の育成期間を経て、中央、地方競馬のトレーニングセンター、競馬場に入厩し、レースに出走。
- 軽種馬は、各ステージ(当歳、1歳、2歳)において、セリ市場又は相対(庭先)で取引。



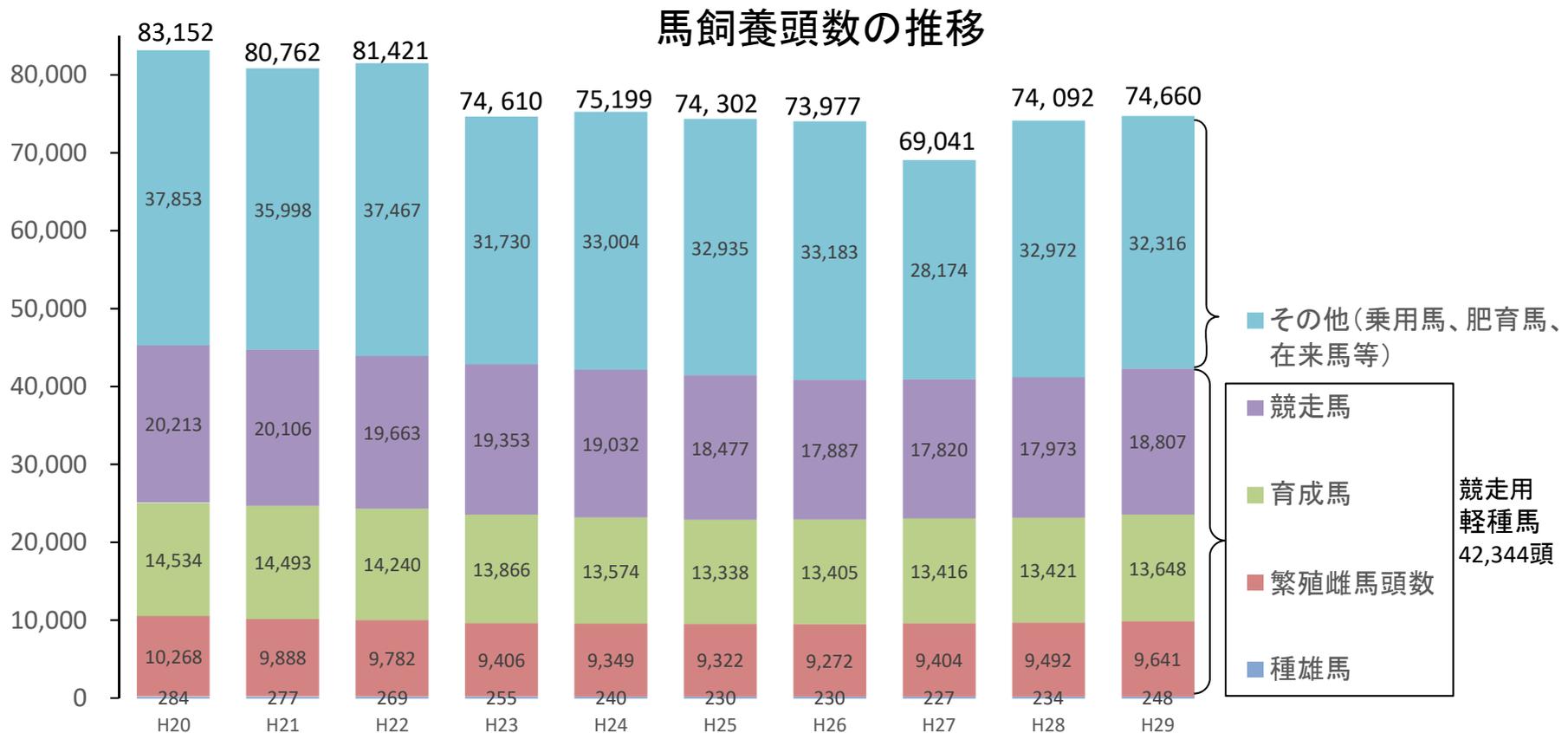
# 軽種馬(サラ系)のライフサイクル



資料：種馬場及び生産牧場における戸数・頭数は「2017 軽種馬統計」（公財）ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、（公社）日本軽種馬協会、その他の登録頭数等は日本中央競馬会、地方競馬全国協会調べ  
注：H27年産馬の3歳時における登録馬頭数については、未集計であることから、H26年産馬の3歳時における登録馬頭数を仮置きしたものの。

# 馬の飼養頭数の推移

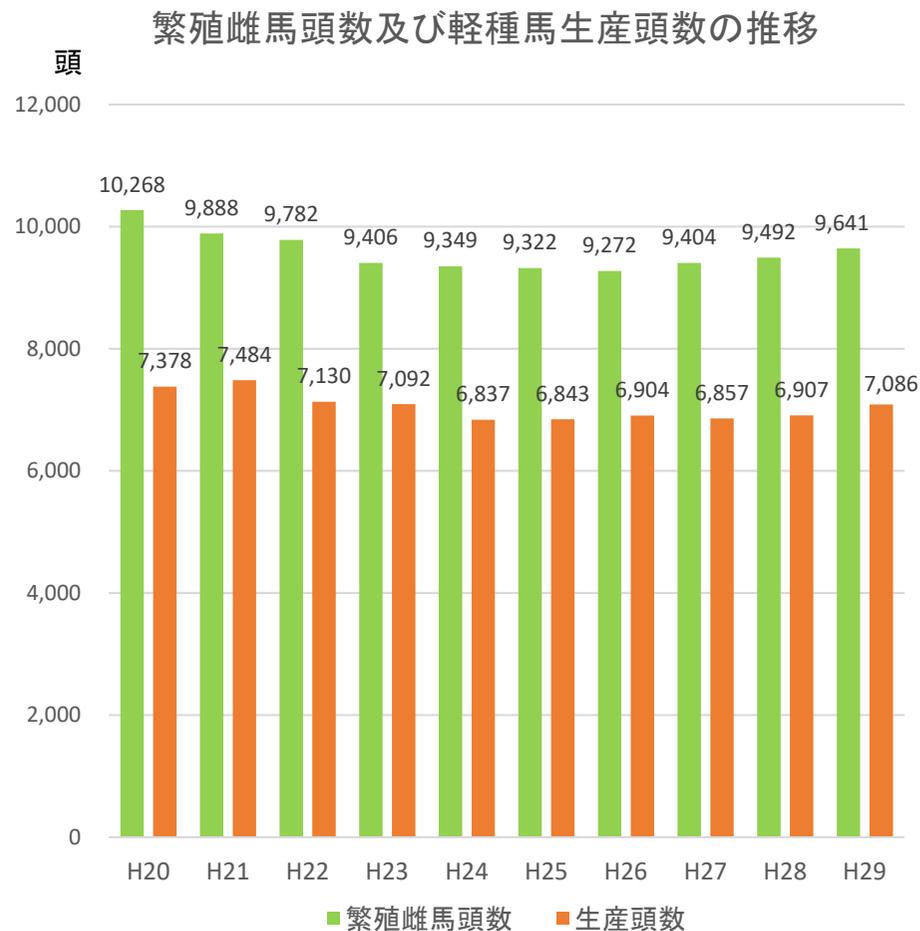
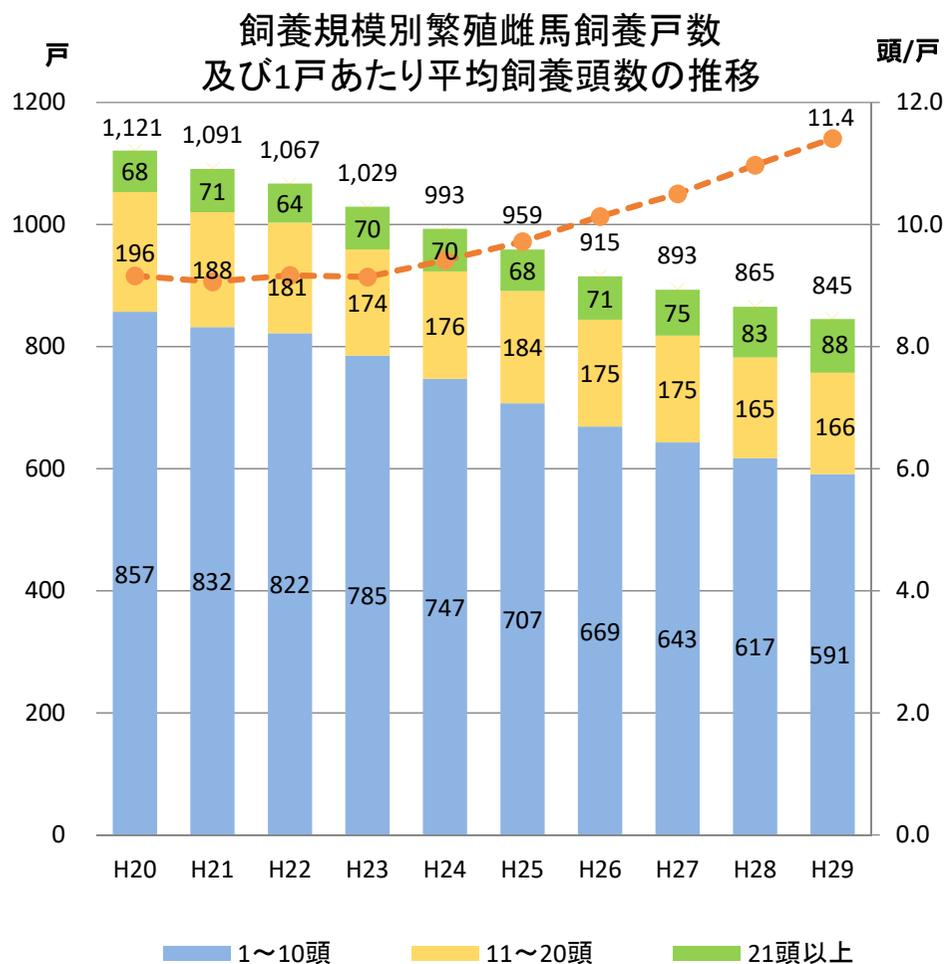
- 馬は品種や体格等により、競走用、乗馬用あるいは肥育用等の様々な目的で飼養されており、H29年の全国の馬の飼養頭数は74,660頭。
- このうち、主に競走用に利用される軽種馬頭数は42,344頭で、総飼養頭数の約57%を占めており、直近ではやや増加。
- 軽種馬頭数のうち競走用に登録されている頭数は18,807頭で、総飼養頭数の25%であり、直近ではやや増加。



資料: 競走馬は日本中央競馬会及び地方競馬全国協会調べ、育成馬は「軽種馬統計」の生産頭数及び前年生産頭数に育成率(0.95)を乗じた数の合計値、繁殖供用種馬は「軽種馬統計」の種雌馬頭数と種雄馬頭数の合計値

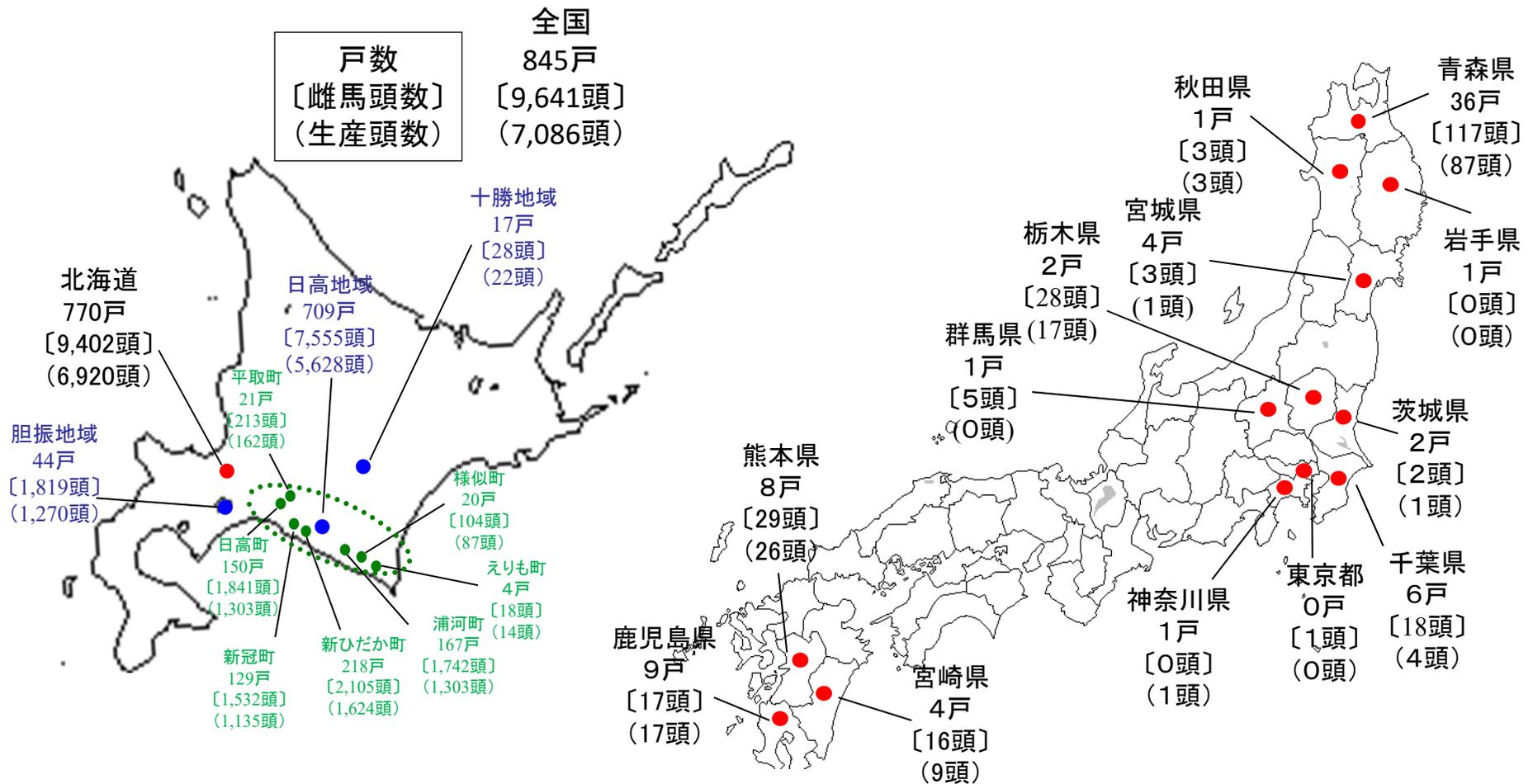
# 軽種馬の生産農家戸数と生産頭数の推移

- 生産農家戸数は減少傾向で推移。特に、1～10頭の小規模農家が減少する一方で、1戸あたり平均繁殖雌馬飼養頭数は増加。
- 繁殖雌馬頭数及び生産頭数は、直近ではやや増加。



# 軽種馬生産の現況(平成29年)

- 全国の軽種馬生産農家845戸のうち北海道は770戸で91%(日高地域は全国の84%)。
- 全国の繁殖雌馬頭数9,641頭のうち北海道は9,402頭で98%(日高地域は全国の78%)。
- 全国の軽種馬生産頭数7,086頭のうち北海道は6,920頭で98%(日高地域は全国の79%)。

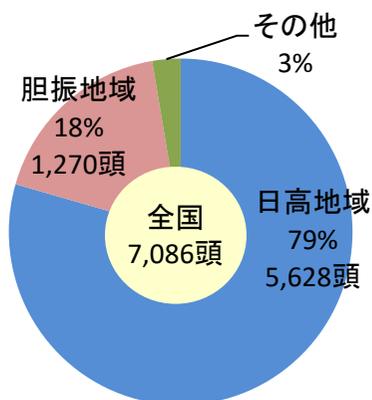


資料：『2017 軽種馬統計』（公財）ジャパン・スタッドブック・インターナショナル（公社）日本軽種馬協会  
注：繁殖雌馬頭数は、種雄馬管理者から提出された種付成績報告書（種付台帳）を基に種付種雌馬頭数を集計したもの

# 馬産地における軽種馬生産の位置付け

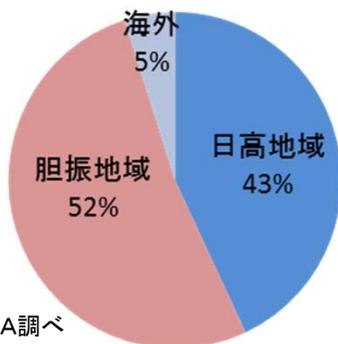
- 日高・胆振地域の軽種馬生産頭数は全国の97%（うち日高79%、胆振18%）。特に日高地域では農業産出額に占める割合が約50%と高く、重要な産業。
- 生産頭数は日高地域が胆振地域より多いものの、GIレース(JRA)における過去10年の優勝馬は、胆振地域の方が多く、日高地域においては強い馬づくりが大きな課題。

## 地域別軽種馬生産頭数割合(H29)



資料: 2017 軽種馬統計  
((公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(公社)日本軽種馬協会)

## GIレース(JRA)優勝馬の産地割合(H20~H29)



資料: JRA調べ

## 日高地域における農業算出額の割合の推移

単位: 千万円

	計	耕種 計	畜産 計						その他 畜産物
				肉用牛	乳用牛	豚	鶏	軽種馬	
平成12年	5,225	841	4,385	253	554	36	9	3,527	6
平成17年	4,443	796	3,647	316	554	49	7	2,718	4
平成18年	4,690	795	3,895	333	525	X	X	2,949	3
平成26年	3,478	676	2,803	432	531	106	3	1,343	
平成27年	3,803	771	3,029	492	580	101	3	1,453	
平成28年	4,056	696	3,364	606	625	99	2	1,920	

※1) 平成12、17、18年は「ひだかの農業2017(日高振興局産業振興部農務課)」農業産出額(粗生産額)

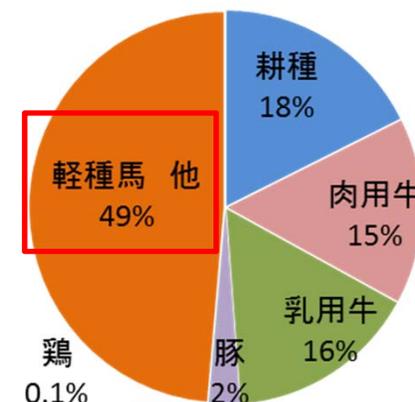
※2) 平成26~28年は「市町村別農業産出額(推計)」より算出。

※3) 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。

(各項目毎に日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町の値を合算。) 平成26年度からのその他の畜産物には、軽種馬、めん羊、やぎ、はちみつ、うずら卵等を含む。

## 日高地域における農業算出額の割合(H28)

資料: 市町村別農業算出額(推計値)(農林水産省)  
※「軽種馬 他」には、めん羊、やぎ、はちみつ、うずら卵等を含む。



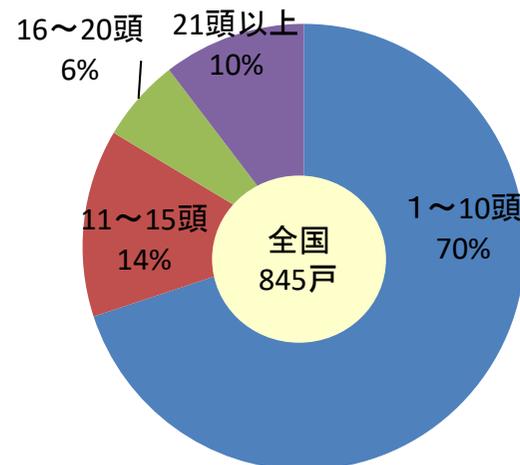
# <飼養頭数規模別>軽種馬生産農家戸数・繁殖雌馬飼養頭数

- 飼養規模10頭以下の生産者戸数は591戸で、全体の70%。
- 飼養規模10頭以下の繁殖雌馬飼養頭数は2,857頭で全体の30%。飼養規模21頭以上の繁殖雌馬飼養頭数は全体の約5割を占める。

## (1) 繁殖雌馬飼養頭数別軽種馬生産者戸数

(単位:戸)

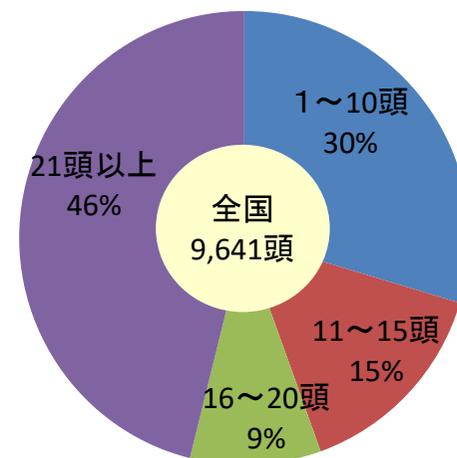
項目	飼養規模			11~15頭	16~20頭	21頭以上	合計
	1~10頭	1~5頭	6~10頭				
全 国	591	353	238	115	51	88	845
	70%	42%	28%	14%	6%	10%	100%
	日高	473	258	215	109	46	81
	67%	36%	30%	15%	6%	11%	100%
胆振	31	18	13	4	2	7	44
	70%	41%	30%	9%	5%	16%	100%



## (2) 飼養頭数別繁殖雌馬飼養頭数

(単位:頭)

項目	飼養規模			11~15頭	16~20頭	21頭以上	合計
	1~10頭	1~5頭	6~10頭				
全 国	2,857	962	1,895	1,432	907	4,445	9,641
	30%	10%	20%	15%	9%	46%	100%
日高	2,451	738	1,713	1,362	818	2,924	7,555
	32%	10%	23%	18%	11%	39%	100%
胆振	150	45	105	48	36	1,585	1,819
	8%	2%	6%	3%	2%	87%	100%

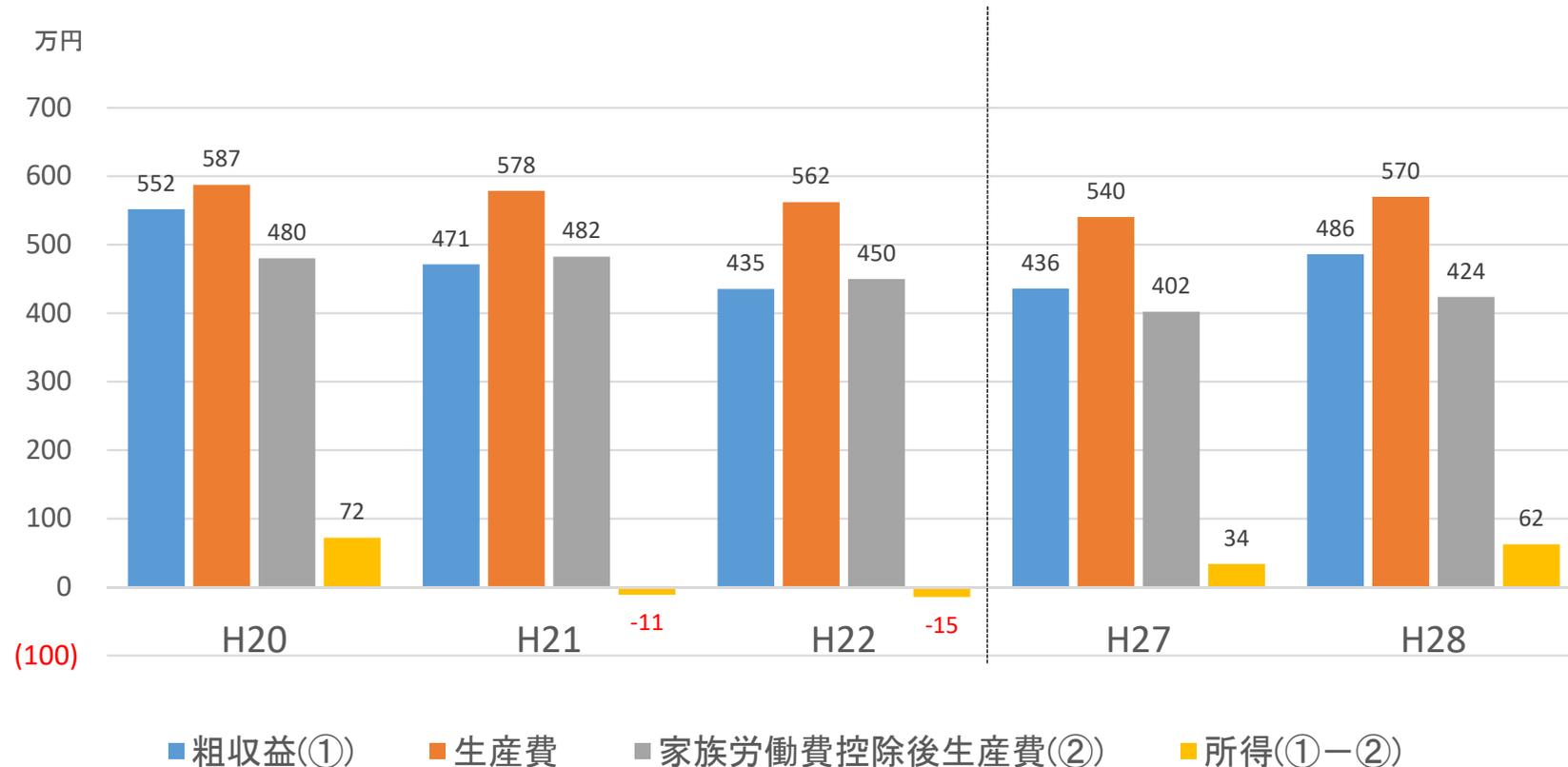


※21頭以上の飼養頭数は種付種雌馬頭数から推計。

# 軽種馬生産農家の経営状況

- 平成28年の産駒1頭あたりの生産費は570万円、所得(家族労働費控除)は62万円。
- 所得に回復の兆しはみられるが、軽種馬経営は依然として厳しい状況。

## サラ系産駒1頭当たり収益性

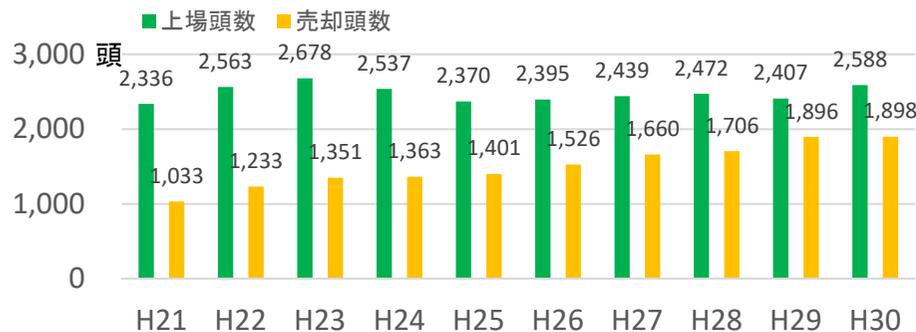


資料: H22年までは「軽種馬生産に関する調査報告書—生産費調査—」日本中央競馬会、H27年以降は「軽種馬生産費等調査報告書」日本軽種馬協会  
 注1: H27年以降の調査から実施手法(対象地域・戸数)及び調査項目等を変更。  
 注2: 生産費は支払利子・地代を含む。

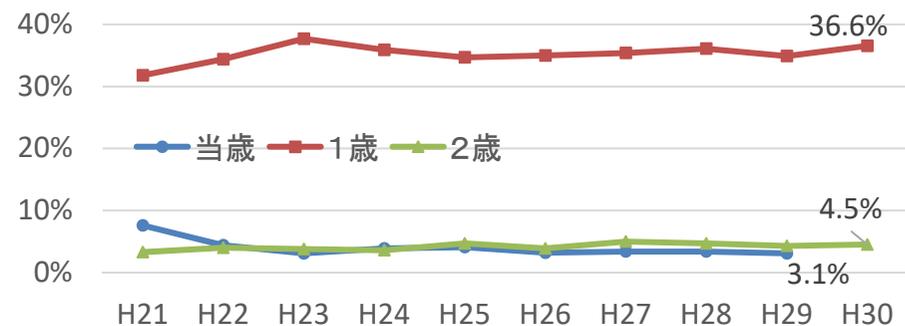
# 軽種馬の市場取引状況

- 取引頭数の多い1歳市場において、近年、市場への上場頭数(2500頭前後)及び上場率(35%前後)はほぼ横ばいで推移。
- 売却頭数(約1900頭)及び売却率(約73%)並びに平均価格は上昇傾向で推移。  
(なお、直近のセレクションセール及びサマーセールの平均価格が低下した要因の一つとして、今年度(平成30年度)から良血馬限定の選抜市場であるサマープレミアムセールが新たに開催されたことが考えられる)。

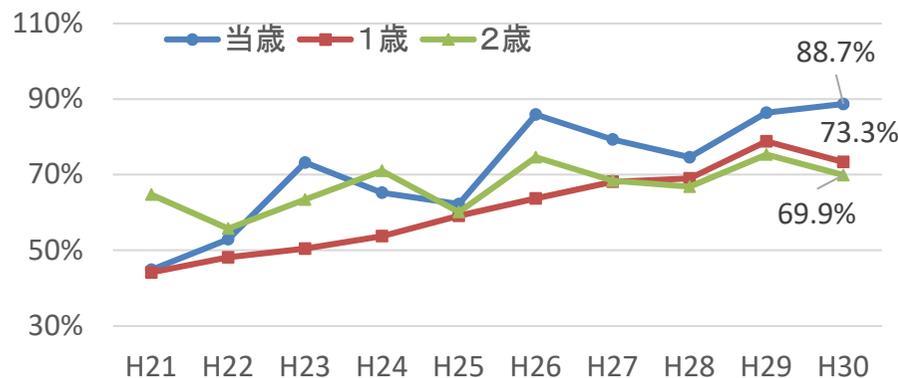
○1歳市場の上場頭数及び売却頭数



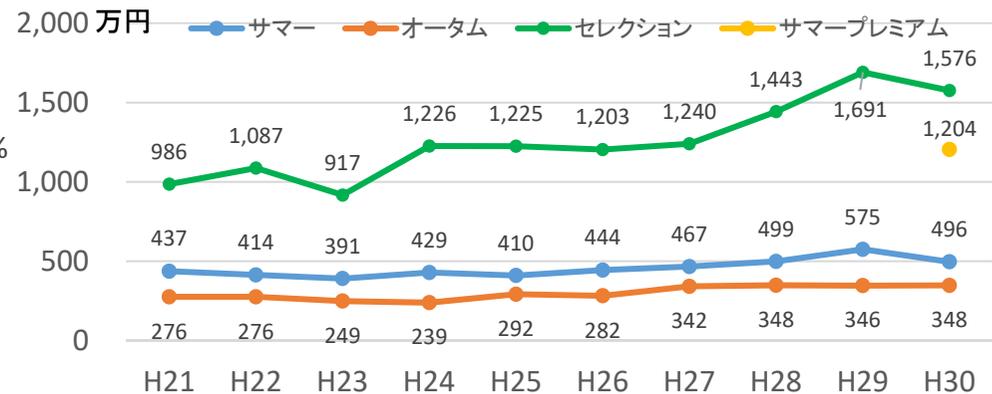
○市場上場率(市場上場頭数/対象年生産頭数)



○市場売却率(売却頭数/市場上場頭数)



○1歳馬主要市場の平均価格



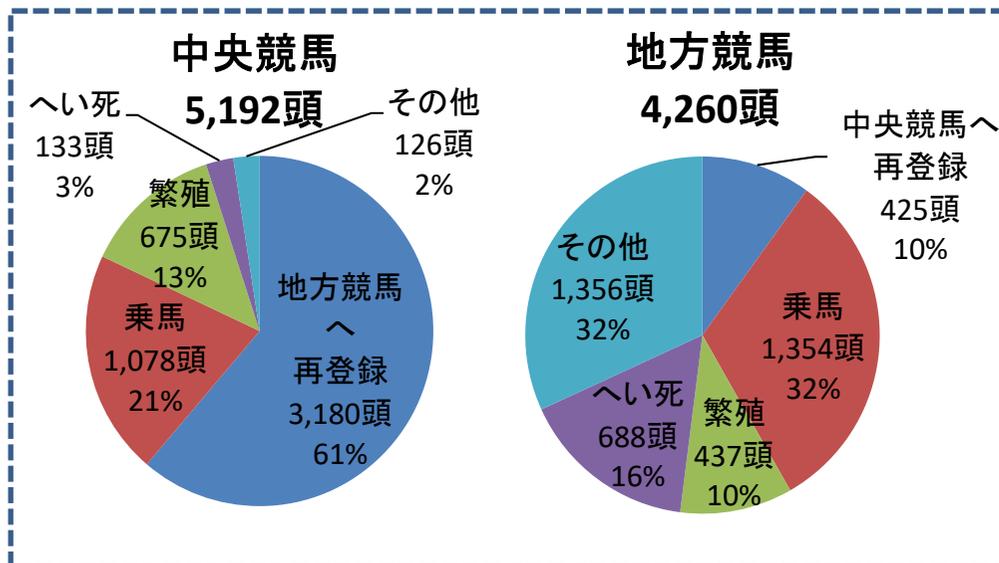
# 馬登録抹消の事由別頭数

- 平成28年末の在籍登録数18,258頭のうち約半数の9,452頭(中央:5,192頭、地方:4,260頭)がH29に登録抹消。
- 抹消事由の内訳は、再登録3,605頭(中央:3,180頭、地方:425頭)が最も多く(38%)、次いで乗馬2,432頭(中央:1,078頭、地方:1,354頭)で26%、繁殖1,112頭(中央:675頭、地方:437頭)で12%となっている。

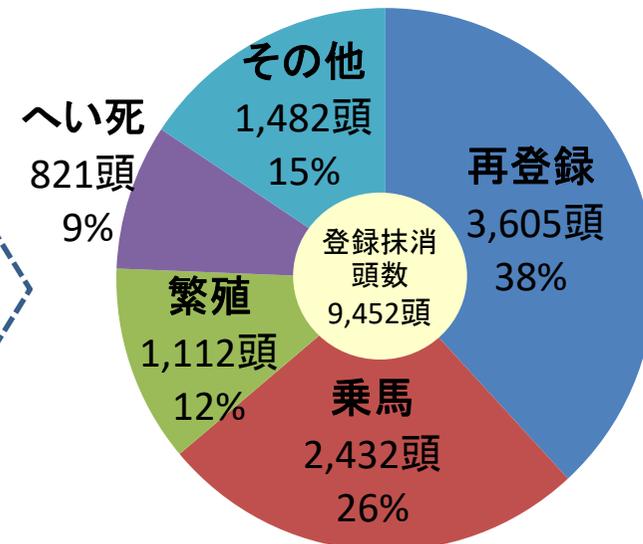
	H28年末 在籍登録馬頭数	H29 登録抹消頭数	再登録馬	乗馬	繁殖	へい死	その他
中央競馬	8,262	5,192	3,180	1,078	675	133	126
地方競馬	9,996	4,260	425	1,354	437	688	1,356
合計	18,258	9,452	3,605	2,432	1,112	821	1,482

※中央競馬：JRA調べ、地方競馬：NAR調べ

## 登録抹消事由別頭数(H29)



## 中央・地方合計



# 馬の多様な利活用について

- 引退競走馬がセカンドキャリアとして乗用馬やホースセラピー、教育、観光等に利活用されることは、馬としての活動期間を延ばすこととなり、動物福祉や競馬の社会貢献の観点からも有意義。
- 世界的な競馬サークルの動向としても、IFHA(国際競馬統括機関連盟)<sup>注1</sup>は、引退競走馬の適切な処遇に「最大限の努力を払うこと」を競馬主催者に求めており、平成29年5月には、競走馬のアフターケアのレベルアップを図るべく国際レベルのフォーラム(IFAR)<sup>注2</sup>が発足。
- 我が国の競馬関係者は、引退競走馬の利活用に関する施策のとりまとめや提案を行う「引退競走馬に関する検討委員会」をJRAに設置(平成29年12月)し、JRAを中心に引退競走馬の利活用に資する取組に対して検討を進めつつ支援を実施中。

## ○ 課題

競馬サークル全体での  
問題意識の共有

セカンドキャリア促進

高齢・引退馬対策(養老・余生)

## ○ JRAの取組状況

事業内容	実施年度	H30予算額
・全国の優良事例の調査、事例集の作成	H26～28	9百万円 (H26～28実績)
・引退競走馬に関する検討委員会の開催 ・国際フォーラムへの参加等	H29～32	20百万円
・馬を安全に取り扱える人材を養成	H29～32	22百万円
・転用のためのリトレーニング技術講習会開催 ・転用乗用馬を対象とした競技会への賞金提供等	H29～32	24百万円
・高齢・引退馬対策(養老・余生)を取り巻く環境改善等に関する提案		
・ホースセラピー活動等のガイドライン等を整理	H29～32	22百万円
・馬による癒し効果等を期待した被災地支援	H29～32	24百万円
・モデル的な取組への支援	H30～32	90百万円
・馬の多様な利活用・引退競走馬等の情報提供	H29～32	21百万円
・「引退競走馬に関する検討委員会」において示された取組、方向性に基づき諸施策を実施	H30～32	275百万円
・引退した重賞勝馬の繋養展示に対する支援	H25～	68百万円

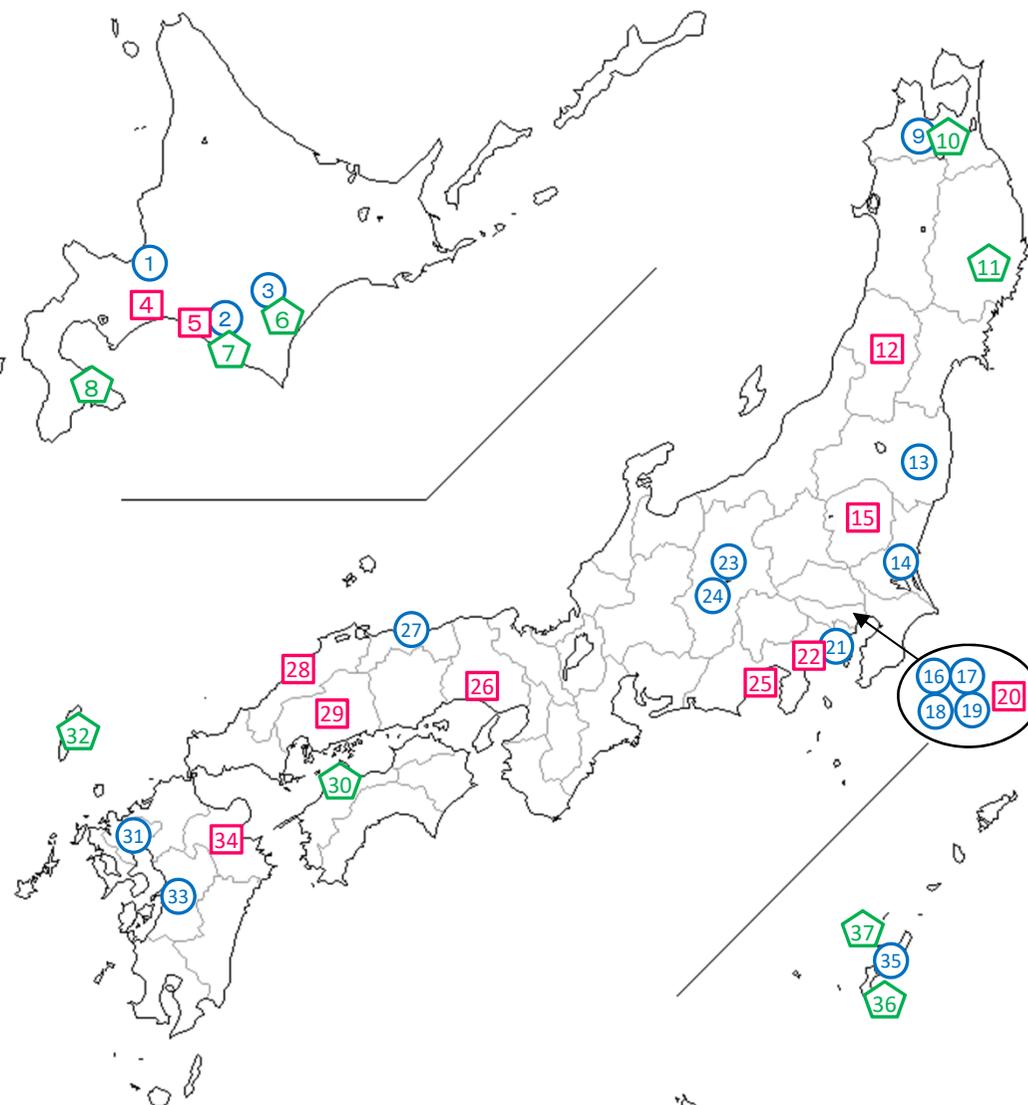
注1:IFHA(International Federation of Horseracing Authorities)とは、各国の競馬統括機関の連合体。競馬に関する規則の統一等を目的としている。

注2:IFAR(International Forum for the Aftercare of Racehorses)とは、競走馬の再調教を促し発展させ、競走馬のアフターケアのレベルアップを図るために発足した国際レベルのフォーラム。各国の引退競走馬関連団体、競馬統括機関等が参加し、平成29年5月に第1回が開催された。

## 【参考資料】馬の多様な利活用の取組事例(平成29年6月時点)

NO	事例取組先		ジャンル
	都道府県	名称	
1	北海道	宮ノ丘幼稚園	教育
2	北海道	北海道静内農業高校	教育
3	北海道	帯広畜産大学	教育
4	北海道	特定非営利活動法人 北海道障がい者乗馬センター	福祉・セラピー
5	北海道	特定非営利活動法人 ビスカリ	福祉・セラピー
6	北海道	十勝地域・別海地域	観光・地域振興
7	北海道	日高地域(新ひだか町・浦河町)	観光・地域振興
8	北海道	どさんこフェスタin函館	観光・地域振興
9	青森	青森県立三本木農業高校	教育
10	青森	桜流鎬馬	観光・地域振興
11	岩手	遠野市	観光・地域振興
12	山形	やまがた馬まつり	福祉・セラピー
13	福島	相馬ポニー牧場	教育
14	茨城	小貝川ポニー牧場	教育
15	栃木	特定非営利活動法人 障がい者のための馬事普及協会(ピルエット)	福祉・セラピー
16	東京	碑文谷公園こども動物広場	教育
17	東京	水元スポーツセンター公園子ども動物広場	教育
18	東京	こども動物園本園・分園※本園は改修のため2018年7月1日～2020年夏まで休園予定	教育
19	東京	上千葉砂原公園ふれあい動物広場	教育
20	東京	ブルーヘイズ農場	福祉・セラピー
21	神奈川	麻溝公園ふれあい動物広場	教育
22	神奈川	特定非営利活動法人 RDA Japan	福祉・セラピー
23	長野	長野県立木曾養護学校	教育
24	長野	蓼科ポニー牧場	教育
25	静岡	特定非営利活動法人 EPO	福祉・セラピー
26	兵庫	一般社団法人 明石乗馬協会	福祉・セラピー
27	鳥取	特定非営利活動法人 ハーモニカレッジ 空山ポニー牧場	教育
28	島根	社会福祉法人 いわみ福祉会 かなぎウエスタンランディングパーク	福祉・セラピー
29	広島	特定非営利活動法人 西日本障がい者乗馬の会 福山ホースクラブ	福祉・セラピー
30	愛媛	のまうまハイランド	観光・地域振興
31	佐賀	フォーシー・ランチ	教育
32	長崎	対州馬うま跳ばせ	観光・地域振興
33	熊本	熊本県立菊地農業高校	教育
34	大分	(株)エル・ランチョ・グランデ	福祉・セラピー
35	沖縄	学校法人アミークス国際学園	教育
36	沖縄	琉球競馬「ンマハラシー」	観光・地域振興
37	沖縄	伊江島ビーチサイドホースパーク	観光・地域振興

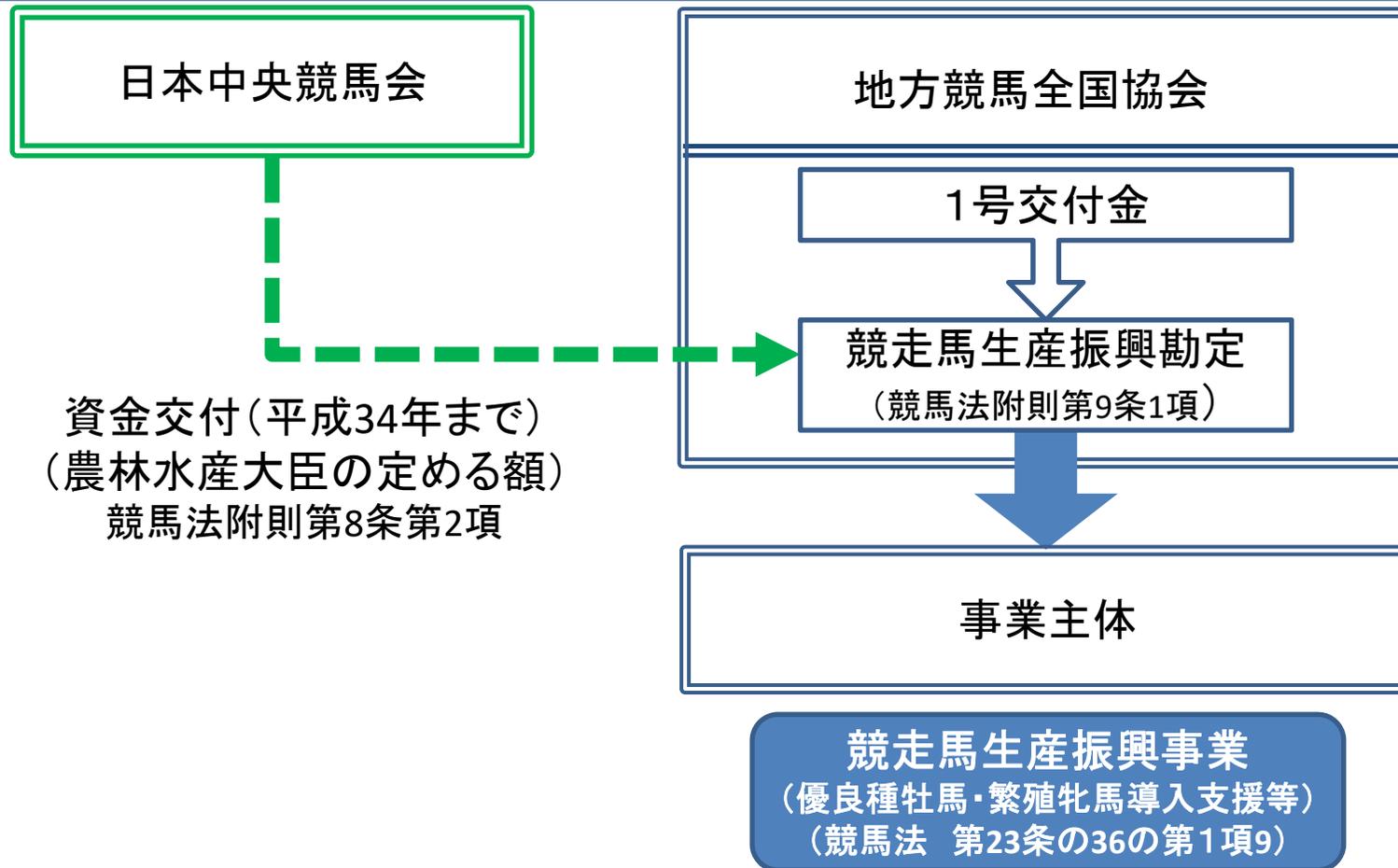
- : 教育
- : 福祉・セラピー
- ◇ : 観光・地域振興



資料 : (公社)全国乗馬倶楽部振興協会調べ(平成26年度～平成28年度調査)

# 競走馬生産振興事業の流れ

- 地方競馬の事業からの撤退、競馬活性化計画の実施その他の地方競馬をめぐる情勢の変化に対応して行う競走馬の生産の振興に資するための事業につき、地方競馬全国協会及び日本中央競馬会がその経費を補助。
- 平成16年の競馬法改正により創設。平成29年の競馬法改正により実施期限を34年度までに延長。



# 競走馬生産振興事業の概要(平成30年度予算額:27億円)

## 1 強い馬づくり

### (1) 優良繁殖馬導入促進

- ① 優良種牡馬の整備(日本軽種馬協会による優良種牡馬の導入) (10億円)
- ② 優良繁殖牝馬の導入(軽種馬生産者の優良繁殖牝馬の導入に対する助成) (1.7億円)
- ③ 繁殖牝馬の流通活性化(繁殖牝馬セールへの上場促進に対する助成) (0.2億円)

### (2) 先駆的な軽種馬生産施設等の整備

- ① 昼夜放牧に適した放牧地の整備に対する助成 (3.1億円)
- ② 担い手を対象とした機械リースに対する助成 (1.0億円)

2 競走馬の流通活性化 市場上場馬の馴致、調教に対する助成 (1.9億円)

3 輸出振興(軽種馬の海外流通促進) 海外顧客向けの誘致活動 (0.9億円)

## 4 生産農家経営支援

- (1) 指導者及び担い手の養成のための研修 (1.8億円)
  - ・生産技術、経営指導者への研修及び担い手に対する養成研修への助成
- (2) 長期低利資金の代位弁済 (0.8億円: ※H26年度に基金措置)
  - ・長期低利資金借受者の農地を軽種馬生産者へ売却することを要件に代位弁済費用を交付
- (3) 長期低利資金の借換に係る利子助成及び代位弁済 (2.0億円)
  - ・借入金の償還が困難になっている後継者に限定して実施

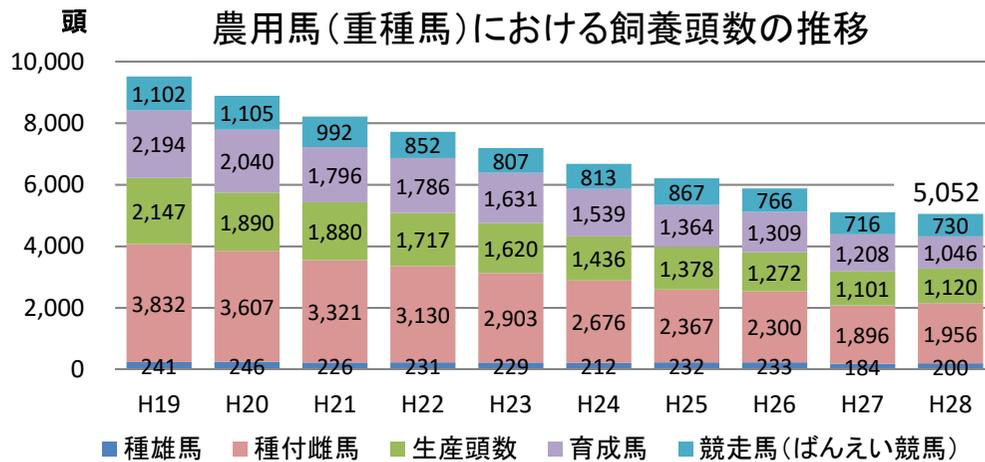
## 5 競走馬の改良増殖推進

- ・軽種馬の登録に係る費用の助成 (0.7億円)
- ・優良2歳馬導入促進対策への助成 (2.1億円)

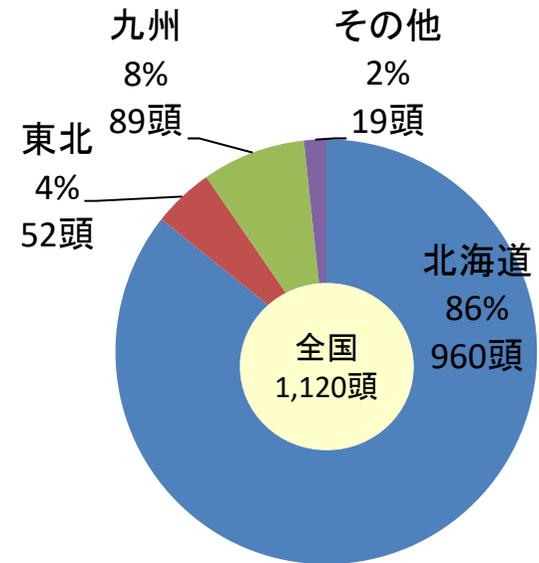
6 競走馬の防疫衛生対策 競走馬(ばんえい含む)の予防接種等に対する助成 (0.5億円)

# 農用馬生産振興について(1)

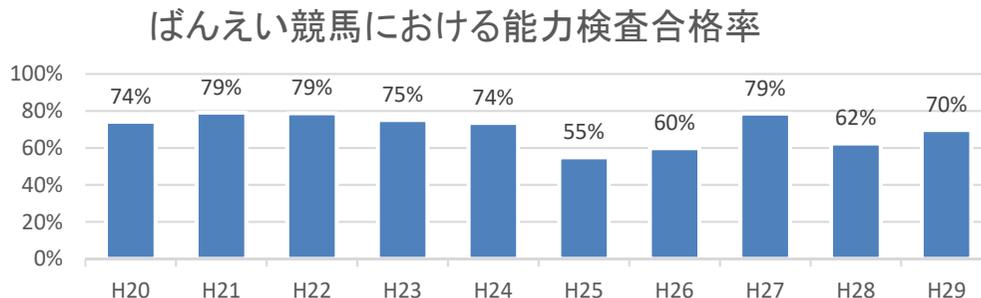
- 農用馬(重種馬)の飼養頭数は減少傾向で推移し平成28年では5,052頭で、北海道で約86%を生産(うち十勝、根釧地域で約6割を占める)。
- ばんえい競馬能力検査の受験頭数も減少傾向。合格率は、60~70%程度で推移。



資料:「馬関係資料」農林水産省生産局畜産振興課



農用馬(重種馬)の地域別生産割合(H28)



受検頭数	398	321	287	285	355	404	299	303	367	304
合格頭数	295	254	226	214	261	222	179	238	229	212

資料:帯広市調べ

(単位:頭)



## 農用馬生産振興について(2)

- 農用馬の生産安定を図っていくためにはその需要者であるばんえい競馬の振興を図っていくことが重要。
- 地方競馬全国協会の畜産振興事業において、農用馬の血統登録の推進、ばんえい競馬出走馬の生産者への奨励金の交付、飼養管理技術に関する研修等を実施。

### 馬の改良増殖推進事業(平成30年度予算額:337百万円)

- 1 登録推進 (64百万円)  
農用種馬登録審査、登録実務者研究会の開催等への助成
- 2 種雄馬の導入 (35百万円)  
農用種雄馬の導入に対する助成
- 3 農用種雌馬の改良増殖推進 (48百万円)  
(1)種雌馬の導入又は自家生産し保留した飼養者への奨励金交付  
(2)農協等が導入した種雌馬等を飼養者に3年以上貸し付ける場合の導入奨励金交付  
(25万円以内/頭、ただし純粋種雌馬は30万円以内/頭、ばんえい競馬出走馬は33万円以内/頭)
- 4 農用馬の繁殖奨励 (115百万円)  
(1)種付けした種雄馬の飼養者への奨励金交付  
(純粋種:9万円以内/頭、純粋種以外:4.5万円以内/頭)  
(2)子馬生産に対する奨励金交付  
(純粋種:4万円以内/頭、純粋種以外:3.6万円以内/頭)  
(3)ばんえい競馬の能力検査合格馬の父母馬の飼養者への奨励金交付  
(合格馬1頭当たり種雄馬は4万円以内、種雌馬は16万円以内)  
(4)農用馬の生産飼養管理技術に関する巡回指導、講習会の開催等への助成
- 5 その他 (75百万円)  
(1)馬事普及イベントの開催  
(2)生産者表彰事業  
(3)ばんえい競馬2歳競走の出走馬生産者への奨励金交付 (1万円以内/頭)